

『第109・110回 クリスマスステップコンサート』開催

【東京】2,150名、【大阪】1,700名 無料ご招待

「介助犬育成のための募金」を日本介助犬協会に寄託

住友不動産グループは、家族そろって楽しめるコンサート『第109回クリスマスステップコンサート(東京)』と、『第110回クリスマスステップコンサート(大阪)』を12月11日(土)、12月15日(水)に開催いたしましたのでお知らせいたします。

本公演は、“芸術・文化に触れ合う機会の創出”を目的に、本格的なクラシックコンサートを誰もが一緒に楽しむことができるよう、全席無料でご招待するクラシックコンサートです。当社グループは、社会貢献活動の一環として、今後も様々な文化・芸術活動の支援・発信を通じて、より一層、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



『第109回クリスマスステップコンサート(東京)』
千住 真理子さんと新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏



『第110回クリスマスステップコンサート(大阪)』
千住 真理子さん、朴 葵姫さんのデュオ

■開催概要

	第109回 クリスマスステップコンサート(東京)	第110回 クリスマスステップコンサート(大阪)
開催日時	2021年12月11日(土) 16:00 開演	2021年12月15日(水) 18:50 開演
会場	Bunkamuraオーチャードホール	ザ・シンフォニーホール
招待客	2,150名	1,700名
出演者	千住真理子(ヴァイオリン)、円光寺雅彦(指揮)、種谷典子(ソプラノ)、大槻孝志(テノール)、新日本フィルハーモニー交響楽団、好本恵(司会)	千住真理子(ヴァイオリン)、円光寺雅彦(指揮)、朴葵姫(ギター)、大阪フィルハーモニー交響楽団、好本恵(司会)

《ステップコンサートとは》

住友不動産グループでは、社会貢献活動の一環として、“家族そろって楽しめるコンサート”をテーマに、1987年より「ステップコンサート」を開催しております。毎回、国内外で活躍する指揮者や演奏家、オーケストラを迎えて開催する本コンサートの招待者数は、累計で約25万人となり、児童福祉向上のために特に優れたコンサートであるとの評価から、1996年より「厚生労働省社会保障審議会特別推薦児童福祉文化財」に指定されています。

また、同会場内で募金活動を実施しており、これまで「震災復興支援の義援金」や「介助犬育成のための募金」など、1995年の募金開始から、累計で1,690万円を寄付しております。

■『介助犬育成のための募金』を日本介助犬協会に寄託

ステップコンサートでは、1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災から義援金活動を始め、2004年以降は、社会福祉活動のため「介助犬の育成」に少しでもお役に立ちたいと会場で募金を行っております。

今回も、東京・大阪それぞれの会場にて「介助犬育成のための募金」の受付を行い、ご来場者様より合計で**506,150円**の募金が寄せられました。ステップコンサート事務局は、このお預りした募金をコンサート開催後に社会福祉法人 日本介助犬協会に寄託いたしました。集まった募金は介助犬の育成のために活用されます。

ご来場のお客様の温かいご協力に感謝致しますとともにご報告申し上げます。



介助犬のイメージ写真
(提供: 社会福祉法人日本介助犬協会)

■公演当日の様子



千住 真理子さんと大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏(大阪)



千住 真理子さん、種谷 典子さん、大槻 孝志さんの共演(東京)



千住 真理子さんのソロ演奏(大阪)



来場者による指揮者体験コーナー(東京)

※本リリースに関する取り組みは、以下のSDGs目標に貢献しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



4 質の高い教育をみんなに



17 パートナースHIPで目標を達成しよう

目標4 質の高い教育をみんなに
目標17 パートナースHIPで目標を達成しよう

弊社では「よりよい社会資産を創造し、それを後世に残していく」を基本使命として掲げ、事業を通じた社会課題の解決に取り組んでおります。今後も、「環境・社会に配慮した性能」を兼ね備えた価値の高い社会資産を創造し、より一層、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

＜弊社のESG、SDGsに関する取り組み＞

<http://www.sumitomo-rd.co.jp/sustainability/>

＜本件に関する報道関係者お問い合わせ先＞
住友不動産株式会社 広報室 TEL:03-3346-1042



© Kiyotaka Saito(SCOPE)

◆ 千住 真理子(ヴァイオリン・お話)／東京・大阪公演

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。2019年はベートーヴェン生誕250周年に先駆け、ピアニストの横山幸雄と「ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ全集」をリリース。2020年は近年発見されたイザイの未完のソナタを新たに録音し、その楽曲を加えたイザイ無伴奏ソナタ全曲「心の叫び」<完全版>を再リリース。またデビュー45周年を迎え、各地で記念演奏会を行う。2021年7月に最新アルバム「蛍の光～ピースフル・メロディ」をリリース。コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)母との共著「母と娘の協奏曲」(時事通信社)「千住家、母娘の往復書簡」(文藝春秋社文春文庫)など多数。

ウェブサイト <https://www.marikosenju.com/>



© K.Miura

◆ 円光寺 雅彦(指揮)／東京・大阪公演

桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を斎藤秀雄氏、ピアノを井口愛子氏に師事。1980年ウィーン国立音楽大学に留学しオトマール・スウィトナー氏に師事。1986年より1991年まで東京フィル指揮者。1989年より1999年まで仙台フィル常任指揮者としてオーケストラの飛躍的な発展に貢献し、2000年には東京公演を指揮するなど両者の取り組みが高く評価された。札幌交響楽団正指揮者(1998年～2001年)を経て、2011年から2019年3月まで名古屋フィル正指揮者として数多くの名演を共にしてきた。NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、新日本フィル、大阪フィル、広島交響楽団をはじめとするほとんどの国内オーケストラ、海外では1992年プラハ交響楽団定期演奏会、1994年BBCウェールズ交響楽団、1995年ベルゲン・フィル、1998年1月にはフランス・ブルターニュ管弦楽団に客演し、深い音楽性と的確な指揮で多くの聴衆を魅了している。テレビ等の番組にも定期的に出演するなど、幅広い活躍を続けている。



◆ 好本 恵(司会)／東京・大阪公演

元NHKアナウンサー、十文字学園女子大学教授、NHK文化センター講師。『きょうの料理』『すくすく赤ちゃん』『NHK俳壇』などを長く担当。現在はNHK番組『TVシンポジウム』などのコーディネーターの他、コンサート、式典の司会を務めることも多い。著書に『話しことばの花束』(リヨン社)『声の文化を楽しむ～朗読のすすめ』(日外アソシエーツ)などがある。



◆種谷 典子(ソプラノ)／東京公演

国立音楽大学声楽専修及び同大学院声楽専攻を首席で卒業。学部卒業時に武岡賞を、また大学院修了時に声楽専攻最優秀賞受賞。宮内庁主催桃華楽堂新人演奏会に出演。新国立劇場オペラ研修所第16期修了。平成28年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてイタリア・ミラノ及びスイス・ルガーノにてLuciana Serra氏のもと研鑽を積む。2021年9月二期会「魔笛」ノパパゲーナに抜擢され、存在感ある演唱で好評を博す。これまでオペラでは、「フィガロの結婚」スザンナ、「ドン・パスクワレ」ノリーナ、「なりゆき泥棒」ベレニーチェ等を演じている。第24回リッカルド・ザンドナイ国際コンクール(伊)に於いてTokyo Metropolitan Opera Foundation賞を受賞。第16回東京音楽コンクール声楽部門第2位。今後は、2022年2月二期会「フィガロの結婚」スザンナ、6月日生劇場「セビリアの理髪師」ベルタで出演予定。二期会会員。



◆大槻 孝志(テノール)／東京公演

東京藝術大学卒業。同大学院修了後、ドイツ及びイタリアにて研鑽を積み、二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞並びに奨励賞受賞。ノルトハウゼン歌劇場管弦楽団来日公演「アイダ」にて名歌手F.コソットらと共演し、本格的オペラ・デビューを果たす。以降、新国立劇場、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、日生劇場、二期会等数多くのオペラに出演。二期会「エフゲニー・オネーギン」ではレンスキーに抜擢されその美声を強く印象付け、近年では「後宮からの逃走」ペドリッロ、「ルサルカ」王子、「フィデリオ」ヤキーノ、「サロメ」ナラポート等を演じ、好評を博している。コンサートでも「第九」をはじめ宗教曲等で高い評価を得、国内外の指揮者やオーケストラから信頼を寄せられている。また豊麗な美声とアンサンブルで注目の男声オペラユニット《IL DEVU》のメンバーとしても活動し、これまでに3枚のCDをリリースする活躍を見せている。二期会会員。



(C) K.MIURA

◆新日本フィルハーモニー交響楽団／東京公演

1972年、小澤征爾、山本直純のもと自主運営のオーケストラとして創立。1997年、墨田区に移転。すみだトリフォニーホールを本拠地とし、日常の練習と公演を行う日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会や特別演奏会の他、地域に根ざした演奏活動も特徴的。1999年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任。受賞歴に三菱UFJ信託音楽賞、ミュージック・ペンクラブ音楽賞等。この他、2004年に音楽家・久石譲と立ち上げた“新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラ”で幅広い人気を集め、映画「千と千尋の神隠し」「ハウルの動く城」「崖の上のポニョ」では管弦楽を担当。2022年には創立50周年を迎え、様々な記念演奏会を開催予定。

ウェブサイト www.njp.or.jp、公式ツイッター: @newjapanphil、
公式Facebook: /newjapanphil、公式Instagram: /newjapanphil



© kno jung

◆朴 葵姫(ギター)／大阪公演

1985年生まれ。日本と韓国で育つ。3歳で横浜にてギターをはじめ、荘村清志、福田進一、A.ピエツリ各氏に師事。東京音楽大学を経て、2014年ウィーン国立音楽大学首席卒業。2016年スペインのアリカンテ・クラシックギターマスターコース首席卒業。2005年小澤征爾指揮によるオペラ公演に参加。2007年ハインツベルグ国際ギターコンクール第1位及び聴衆賞、2008年ベルギー“ギターの春2008”第1位、リヒテンシュタイン国際ギターコンクール第1位、2012年アルハンブラ国際ギターコンクール第1位&聴衆賞、他多くの主要国際ギターコンクールで優勝・受賞。N響、都響、読響はじめ主要オーケストラと共演。CD録音は「Harmonia-ハルモニア-」(2018年)他多数のタイトルをリリース。2020年デビュー10周年を記念した初のセルフプロデュースアルバム「Le Depart」を制作。欧米、アジア圏の各国のギターフェスティバルへ招かれ、国際的に高い評価を得るなど、クラシックギター現世代のトップランナーとして活躍している。



© 飯島隆

◆大阪フィルハーモニー交響楽団／大阪公演

1947年朝比奈隆を中心に「関西交響楽団」という名称で創立、1960年改称。創立から2001年までの55年に亘り朝比奈隆が音楽総監督・常任指揮者を務めた。大植英次音楽監督時代には「星空コンサート」「大阪クラシック」といった大型プロジェクトで注目を集め、2014～2016シーズンは井上道義を首席指揮者に迎え、「シヨスタコーヴィチ／交響曲第4番」「交響曲第7番」「交響曲第11番」の録音で高い評価を得た。2018年4月、尾高忠明が音楽監督に就任。現在、フェスティバルホール(大阪・中之島)を中心に全国各地で演奏活動を展開している。2017年度文化庁芸術祭・優秀賞受賞。2017・2018年度関西音楽クリティック・クラブ賞本賞、大阪文化祭賞を二年連続で受賞。

ウェブサイト <http://www.osaka-phil.com>